

平成25年度

目黒区学力調査と授業改善プラン

- I 「目黒区学力調査」の概要
- II 平成24年度「目黒区学力調査と授業改善プラン」の検証
- III 「目黒区学力調査」等に基づく授業改善プラン
 - ・本校の授業改善に向けた方策（学校全体）
 - ・第1学年～第3学年

平成25年7月
目黒区立第十一中学校

I 「目黒区学力調査」の概要

1 調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第2学年～第6学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。（原則として、特別支援学級に在籍する児童・生徒は対象としない）

2 調査の内容

(1) 調査の対象学年及び対象生徒数（本校）

	1 年	2 年	3 年
対象数	7 1 人	6 0 人	7 5 人
実施数	6 8 人	5 8 人	7 4 人
受検率	9 6 %	9 7 %	9 9 %

(2) 調査内容と実施教科

① 学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

② 生徒の学習に関する意識

1年 意識調査、国語、数学、社会、理科

2年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

3年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

(3) 実施日

平成25年4月12日（木）

Ⅱ 平成24年度「目黒区学力調査と授業改善プラン」の検証

(1) 成果

- 教科全体の達成率において、目標値に対して下回っている教科はなく、良好な結果である。特に、国語は昨年度より上回っている。
- 「基礎」「活用」に関する内容の達成率において、目標値に対して下回っている教科はなく、良好な結果である。2年の活用については全教科で昨年より上回っていた。
- 「教科の観点」の達成率において、目標値に対して下回っている教科はなく、良好な結果である。特に、2・3年国語の全部の観点で、昨年度より上回っている。

(2) 課題

- 目標値に対して同程度の教科、教科の観点がある。全教科、全教科の観点を上回っているようにする。
- より魅力ある授業を展開するために、教材や指導法に工夫が必要である。
- 生徒全員に授業規律を着実に身に付けさせ、集中して授業に取り組む態度を育てることが必要である。

Ⅲ 目黒区学力調査等に基づく授業改善プラン

本校の授業改善に向けた方策

- 少人数授業(国・数・理・英)・習熟度別授業の効果的な活用により、個々の習熟度に応じた授業を展開し、一人一人の能力の伸長を図る。
- 新たに導入されたICT機器の効果的な活用を推進し、生徒の興味・関心を高め、学ぶ楽しさを実感できる授業を展開する。
- 年5回以上の研究授業を実施し、魅力ある授業への工夫・改善を進める。
- 学区の小学校との教科指導における連携を深め、小中9年間のカリキュラムを見通して指導方法・内容等の改善を進めて、基礎基本の定着を図る。

十一中学校 第1学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等からみられる課題	授業改善の方策
国語	○「話すこと・聞くこと」、の学力を伸ばす指導をする必要がある。 ○「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は達成率が目標値を上回っているが、漢字の知識を向上させる。	○「聞き取りテスト」や「スピーチ」を多く取り入れることで、「話す・聞く」能力を高める。 ○自分の意見を文章で書く活動を取り入れたり、毎週漢字テストを実施したりすることで「書く」能力、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の能力の向上を図る。
社会	○「関心」「意欲」「態度」と「思考」「判断力」「表現」のさらなる育成を図る。	○作業的な学習を増やしたり日常生活と学習内容をリンクさせたりして生徒の達成感や理解感を高め、学習意欲のさらなる向上につなげる。 ○獲得した社会科的知識を生かし自分の考えたことを適切に表現できるように、疑問形の学習テーマを随時取り上げる。
数学	○数学的思考力・判断力・表現力を養うこと。 ○数量の間の関係をつかみ式に表現すること。 ○図形の合同や平面図形の移動について理解すること。 ○少数・分数の計算に習熟すること。	○各単元の応用・複合問題で、既習の内容に立ち返らせながら応用力、論理的思考力を養う。 ○多様な方法で解決できる問題について、他者とのやりとりを通じて幅広い考えを理解し、表現できるようにする。 ○様々な方程式の立式や、関数関係を式化することを通じて理解を深めさせる。 ○比例や反比例の定義を理解し、区別できるようにさせる。 ○図形の合同や平面図形の移動について実際の操作や作図を行わせることを通じて理解を深めさせる。 ○方程式や式の計算などの発展教材として数多く練習させる。
理科	○観察・実験の技能・表現を高める。 ○実験結果から、結果を正しく分析し、考察する。	○生徒に実験の目的を理解させ、観察・実験を充実させること。 ○予想や考察の根拠を論理立てて考えられるようにしていく為に思考の時間を増やし、適宜発表や討論を取り入れ指導していくこと。
英語	○「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的にバランスよく伸ばすこと。 ○「文法」に関する基礎、基本の定着と確かな学力の向上。	○「読む・聞く・話す・書く」に関してそれぞれの力を伸ばすことを目標に英文の音読、暗唱、単語の反復練習の機会を設定し指導する。 ○集中力を高め、興味関心を引き出す課題設定の工夫を心がける。 ○外国人講師と会話する機会を増やし、英語への興味・関心を高める。 ○表現の能力を支えるボキャブラリーの増強や基本的な文型・文法事項の定着を図る指導を工夫し、モチベーションを高めさせる。

十一中学校 第2学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等からみられる課題	授業改善の方策
国語	○「書くこと」の領域では、今後も指導が必要である。	○週4時間のうち1時間を「書くこと」の学習に当て、継続的に指導する。 ○少人数授業のメリットを生かし、各自の習熟度の合わせた添削を行う。 ○「書く」ためのモデル文を作成し、書く練習を繰り返す。 ○各課題に対して自分の意見や考えを持つ時間を設け、それを文章で書く活動を多くもつようにする。
社会	○「関心」「意欲」「態度」と「思考」「判断力」「表現」のさらなる育成と『基礎学力』の充実を図る。	○作業的な学習を増やしたり日常生活と学習内容をリンクさせたりして生徒の達成感や理解感を高め、学習意欲のさらなる向上につなげる。 ○学習内容を精選し、また復習を随時おこなうことにより基礎学力のさらなる定着をはかる。 ○獲得した社会科的知識を生かし自分の考えたことを適切に表現できるように、疑問形の学習テーマを随時取り上げる。
数学	○数学に対する関心・意欲を高めるため基礎学力の向上に努める。 ○図形の性質について理解を深め、空間図形に対する感覚を高める。 ○グラフの意味を理解し、必要な情報を読み取ったり、表現したりすること。 ○資料の整理・活用の意義と手法について理解すること。	○導入や応用で実生活と関連付けるなど興味を持たせるように工夫する。 ○基礎学力を定着させるため、朝学習を実施する。 ○立体の見取り図、展開図、切断図、投影図について実際に作図する活動を通して理解を深めさせる。 ○伴って変わる2変数の関係をいろいろな方法で表現させ、理解を深めさせる。 ・対応表、グラフ、式を用いて、関数関係を表現させる作業を行い、それらの関係を理解できるようにする。 ・グラフの意味並びに方程式の解との関係を理解させ、グラフを用いて問題を解くことのよさを理解させる。 ○度数分布表、ヒストグラム、代表値、有効数字などについて理解を深めるため、データを加工して表現する活動を行う。
理科	○関心・意欲・態度を育てる。 ○科学的な知識の定着と思考力の向上。 ○科学的事象を日常生活との関連を深める指導の充実。	○実験や観察を充実させ生徒の活動を増やし、関心のある授業を展開していく。レポートや提出物などの大切さを徹底して指導していく。 ○それまでの学習内容や経験からの知識を役立て、論理立てて実験の考察を考えられるように、予想の理由付けから指導し考える習慣を指導していく。 ○ものづくりや身の回りの事象を取り扱い、原理を深く理解し応用することを学び、学習内容が社会と深く関わっていることを実感させるように指導していく。

英 語	○「4技能の総合的な育成」活動を計画的に取り扱い、評価材料を整える。 ○基礎学力を定着させるため、反復的な学習活動を行う。	○レシテーション、身近な出来事興味のあることについてのスピーチを行う。 ○語句や表現、文法事項などの知識・理解の定着を図る。具体的な場面や状況設定し、文法知識と語彙知識を活用し、自分で作文した英文をペアになって対話したり、インタビューなどの言語活動を行う。 ○まとまりのある英文の音読と暗記を繰り返し行い、表現の定着を図る。 ○単語や慣用表現は、毎授業単語の反復活動、小テストを行い、語彙力を高める。
--------	---	--

十一中学校 第3学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等からみられる課題	授業改善の方策
国 語	○基礎基本の「活用」が課題である。	○基礎的、基本的な力を活用できるように、練習問題や応用問題を解く時間を設けたり、高校入試問題や実力問題などを解いたりする機会を増やす。 ○活用するための基礎基本を確実に定着させるために、漢字テストや確認テストなどを行う。
社 会	○「関心」「意欲」「態度」と「思考」「判断力」「表現」のさらなる育成と『基礎学力』の充実をはかる。	○作業的な学習を増やしたり日常生活と学習内容をリンクさせたりして生徒の達成感や理解感を高め、学習意欲のさらなる向上につなげる。 ○学習内容を精選し、また復習を随時行うことにより基礎学力のさらなる定着をはかる。 ○獲得した社会科的知識を生かし、また問題文や図表などから必要な情報を正確に取捨選択したりして自分の考えをまとめたりそれを表現したりできるよう、問題演習を繰り返し行わせる。
数 学	○知識や技能を活用する力を育てること。 ○グラフの意味を理解し、必要な情報を読み取ること。 ○図形の性質を理解し、筋道を立てて証明すること。	○各単元の応用・複合問題で、既習の内容に立ち返らせながら応用力、論理的思考力を養う。 ○伴って変わる2変数の関係をいろいろな方法で表現し、理解を深める。 ・対応表、グラフ、式を用いて、関数関係を表現させる作業を行い、それらの関係を理解できるようにする。 ・グラフの意味ならびに方程式の解との関係を理解させ、グラフを用いて問題を解くことのよさを理解させる。 ○根拠を明確にし、他者に自分の考えを説明する活動の実施。 ・根拠となる種々の定義や定理について、整理して身につけさせる。 ・証明の手順や基本的な形式に慣れるように反復練習する。 ・多様な方法で解決できる問題について、他者とのやりとりを通じて幅広い考えを理解し、表現できるようにする。

理科	○学習内容と日常生活に見られる現象とを結び付ける指導の充実。 ○科学的な考え方を説明する学習の充実。	○原理や法則を理解し応用することを目的としたものづくりや、理科で学習したことを野外や日常生活の中の事象から確認していく指導を行う。 ○科学的な思考力や表現力を育むために、レポートの作成や、発表、討論をすることで、知識や技能を活用する言語活動を取り入れる。
英語	○「語形・語法の知識理解」を重視し、今年度も昨年度と同様に課題である。 ○単語力を身に付けさせること。 ○外国人講師と会話する機会を増やし、英語への興味・関心を高めること。	○単語力や文法の力を一層身に付けさせ、「書く力、表現力」の向上を図る。100語前後のまとまった英文を速読する機会を増やし、総合力を伸ばす。高校入試問題を解かせたり、オリジナルのテーマに沿った作文や日記を書かせたり、スキット、暗唱を適宜取り入れていく。 ○単語、連語のスペリングコンテストを行う。再テストを繰り返し行い、どの生徒にも基本となる単語力を身に付けさせる。 ○スピーチや会話テストなどコミュニケーション能力向上につながる活動を取り入れる。